

西宮市立郷土資料館ニュース 第28号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944
電話 0798-33-1298 email nmc00065@nishi.or.jp web www.nishi.or.jp/~kyodo/



カジタメの作業場

特別展「道具の記録／道具の記憶」

平成13年8月4日～8月26日

大上直美（当館嘱託）

1. 民具の「聞き取り」

館蔵民俗学資料約7300点の中から、豊富な「聞き取り」をともなう民具を展示する。展示資料は、西宮市内在住の11人の旧蔵者からの寄贈である。寄贈資料点数ではなくて、「聞き取り」内容に重点を置いて選出した。

「聞き取り」は、民俗学調査によって道具に関する旧蔵者の記憶を記録したものである。旧蔵者から聞かれる話は、大体3代前の祖父母くらいまでの伝承であり、近現代の西宮のくらしの様子を知ることができる。本来、民具収集の際、「聞き取り」がなければ、民具が民俗学資料としての価値を有するには不十分である。しかし、収集の機会は蔵の解体などによって道具が必要でなくなったときに訪れるのが現状で、すべてに聞き取りが得られないまま収蔵庫がいっぱいになっていく。

以前特別展「発明のデザイン～近代の民具」（1996年）で、聞き取りをともわない民具を近代の物質文化として展示したことがある。今回は、それに続く民具を考える展示である。文字記録のある民具に対して、「聞き取り」記録が充実する民具は民俗学資料としての価値を増す。民俗学資料としての民具はどのように表現すればよいのか。その方法として、「聞き取り」を前面に出した展示を試行することになった。「聞き取り」は、旧蔵者の協力がなければ記録できない。展示室は、11家の旧蔵民具を家ごとに分けた。文字記録中心の演出を目指して、各コーナーに900mm×1200mmの「聞き取り」の文字パネルを設置する。また、寄贈された道具が保管されている収蔵庫のイメージを伝えるべく、作業現場などでみられる足場を組んだ展示台を設置する。

民具収集の際の「聞き取り」が重要な民俗学資料であることを示すことを目的としているが、何よりも民具収集に協力いただいた旧蔵者の方々への感謝を込めた内容になればと考えている。展示概要を旧蔵者／収集年／寄贈資料／聞き取り内容の順にまとめた。

- 1 塚本氏／1987、1991／鍛冶道具一括143点(桶、杵、釜、炭壺、カナハシ、灰かき、ドリル、カナトコ、滑車、コークス、カナトコなど)／鍛冶屋の道具
- 2 鹿塩氏／1991／うたせ網のオモリ、お櫃、石臼、リキロ、モンドリ、縄、さし網、

洗い桶、生簀、漁業用ランプなど32点／うたせ網漁

- 3 野村氏／1992／オゼンタライ、ハンボウ、カゴ、マゴカキ、カラスキ、サラカゴ、田植え用杵、田植え用縄など28点／荒神さんの日
- 4 松山氏／1992、1994／両手ビキ、はんぎり、羽釜、よき、のこぎり、火箸、こたつ、鍬、肥えくみなど26点／製材店の仕事
- 5 村本氏／1994／イチゴ出荷用木箱イス、ジョレン、スジキリ、桶、天秤棒、鳥よけ棒、稲干し棒、箕、フルイなど51点／イチゴ栽培
- 6 松本氏／1995／藁切り、苗カゴ、箕、カゴ5点／農具・行商
- 7 塚本氏／2000／おかきぎり1点／かき餅づくり
- 8 栗崎氏／1997、1998／はかり、ハンダゴテ、コテ、かたくち、一合杵、イカリ、大きな樽を二人で担ぐ道具14点／八百屋の仕事
- 9 赤松氏／2000／洗張り道具一括78点（看板、桶、ミシン、湯のし棒、湯のし釜、はけ、鯨ざし、しぼり機、しんしぼりなど）／洗張りの仕事
- 10 吉井氏／2000／釜、火鉢、タバコボン、コウジブタ、セイロ、桶、ザルなど17点／ヘッツイサン・餅つき
- 11 上田氏／1998／漁具一括812点（カニカゴ、モンドリ、タコツボ、釣針、イカ釣針、はえ縄、カーバイトランプなど）／漁師の生活

2. 赤松さんの洗張り道具

これら展示資料のうち、もっとも印象深いのが赤松さんの洗張り道具である。赤松氏が病気療養中のため、洗張り業を廃業するという御家族からの連絡があった。洗張り道具一括受贈することになり、作業場のある自宅へ3度にわたって収集に伺った。残念なことに、中庭に作りつけたコンクリート製の洗い桶は取り壊されたあとだった。

寄贈資料は、はじめから一括ではなかった。それは、赤松氏が手放されない道具があったからである。それは、はさみとミシンである。2度目に伺ったとき、前日退院されていた赤松氏の聞き取りの中でその理由が明らかになった。大正6年西宮生まれの赤松氏が奉公先の大阪の洗張り屋「虎屋」から独立したのは、1937年ころである。西宮の実家で開業してから1999年まで仕事をしていた。そのはさみは、赤松氏が独立したときに、御尊父から贈られたものでとても高価なものだという。はさみを見ながら話す姿を浮かべると、他の旧蔵者の思いまでも理解できる気がする。

しかし、それから1週間もしないうちに他界されてしまった。御家族は、電話口で聞き

取りのことを「遺言みたいだね」と話された。工作室で受けた電話のそばは、整理中の赤松氏からの道具が積んである。悲しかった。同時に、多くの失敗に後悔することになった。それは、赤松氏の写真が撮れなかったこと、テープ録音できなかったことである。写真が撮れなかったのは、本人が浴衣姿で布団に横たわった写真を拒まれたからで、赤松氏の意味を尊重してのことであった。今となれば、どうして強行できなかったのか、民俗学資料としての記録写真を残すという使命感に欠けていたのではないかと自問するしかなかった。挙句に、テープレコーダーを忘れてしまった。

ミシンは寄贈資料となったが、結局はさみを頂戴することはなかった。赤松氏には、聞き取りだけでなくいろんな勉強をさせていただいた。感謝している。

展示資料の詳細な聞き取りは、開催日から販売する特別展カタログにすべて掲載している。寄贈者の言葉に西宮の歴史を感じながら、ひとりでも多くの方々に観覧いただければ幸いである。

3. 民具収集の実際

以下に、西宮市立郷土資料館における民具収集の過程を記す。

1 収集

(1) 寄贈の申し込みを受ける

寄贈申込者の来館あるいは電話連絡による。資料に関して概要を聞く。明らかに次項の受入基準に該当しない場合を除いて、この段階で受け入れの判断はしない。現地へ行く日時を調整する。

(2) 民具の下見

受入基準として、次の事項を検討する。

民俗学資料であること／博物館資料化が可能であること／西宮市内の道具／動力を用いて自動的に動かさない道具

これらに加えて、損傷の具合はどうか／修復可能か／既存しているものか既存していないか／用途のわかるものか／使用地、使用者、入手経路等の確認ができるか否か／形に特徴があるかなどを考慮する。

基本的には、はじめの4つの事項を満たせば受け入れる。厳密には、続く事項に4つ以上該当していることが望ましい。聞き取り調査も同時に行う。

(3) 受入決定

受入方法には、寄贈・寄託・購入がある。下見の段階よりも、具体的な内容におよんだ

聞き取り調査を行う。郷土資料館という性格上、特に西宮との関連性に重点をおくようにしている。

- (4) 資料寄贈申込書に申込者が申込者氏名、住所、電話欄を記入する。その他の必要事項は、学芸担当者が記入作成する。
- (5) 寄贈受入許可書及び収集資料に関する資料（合計点数、聞き取り内容等）を作成、資料寄贈申込書に添付して決裁をとる。資料寄贈申込書には受入番号をつける。公開書類として10年間保存する。
- (6) 資料受領書を1部作成し、申込者に送付する。決裁に提出した収集資料に関する資料をコピーして添付する。添付資料の送付にあたっては、内容の確認と訂正をお願いしている。それは、より正確な聞き取り記録を確保するためだけでなく、それによって、聞き取り調査の有用性への理解を促す意味がある。

2 整理

- (1) 民具は、まず、当館民俗学資料分類に照合して民俗資料整理台帳に登録する。登録においては、単体で使用可能か否かを判断基準として1点につき1カード作成する。部品のみはそれを1点とする。

また、用途に応じて2分類にわたる場合は、その民具1点について分類番号を併記し2カード作成する。

- (2) 民俗資料登録票（または無形民俗資料登録票）を作成する。資料情報（実測寸法、書印、形態、聞き取り調査等の記録を記入する。それを1点につき1フォルダ作成し、ファイリングし、分類別に分けたキャビネットに保管する。
- (3) 民俗文化財カードを作成し、資料に添付して保管する。
- (4) 民俗資料目録のデータファイルに随時入力していく。各項目ごとにデータ検索が可能である。展示資料リストアップの時間の短縮など、活用度は大きい。一部データは、『収蔵資料目録』第二集民俗資料（1999年3月刊）として刊行した。
- (5) 写真撮影をする。記録写真は、民俗資料登録票に貼付し、ファイリングする。
- (6) マーキング

マーキングはホワイト（ポスターカラー）を使用する。「NCM-F-○○○○（整理番号）」と小さく（1mm～2mmくらい）整理番号を記す。分離する道具には1点ずつ記す。衣類など布製品には、布地（3cm×6cm）に整理番号を記して縫いつける。

(7) クリーニング

クリーニング後、燻蒸庫に保管する。

3 保管

(1) 燻蒸庫において燻蒸する。(年1回)

(2) 分類別に整理した収蔵庫の棚へ保管する。民具の収蔵庫内の温度は22～23度、湿度は55～60%を維持している。

(3) 出展した資料については、民俗資料登録票と民俗文化財カードの展示履歴欄に記載する。

西宮市立郷土資料館民俗学資料管理書類

書類	A 資料寄贈申込書	B 資料受領書	C 民俗資料登録票	D 民俗文化財カード	E 民俗資料目録データベース	F 民俗資料整理台帳	備考
記入事項	申込者氏名/住所/電話	申込者氏名	(旧)所有者/年齢/職業/性別 採集地	(旧)所有者 採集地	旧蔵者 採集地1/採集地2	氏名 採集地	採集地1-市町村名/採集地2-番地
	受入年月日	受領年月日	採集年月日	採集年月日	採集年月日 (西暦)	受入年月日	
	品名	品名	標準名	品名	名称 (標準名)	資料名	所在-収蔵庫保管場所 分類番号-大項目/中項目/小項目 〔「有形民俗資料分類項目」〕 受入番号-「西暦-通し番号」 (例2000-001)
			地方名		採集名称 (地方名)		
			所在	所在	---	---	
			分類番号	分類番号	分類番号	分類番号	
			整理番号	整理番号	収蔵番号 (整理番号)	整理番号	
	受入番号	受入番号	収蔵番号	収蔵番号			
	数量 (個数)	数量 (個数)	数量 (個/g)	---	個数 (数量)	数量	寸法 (cm) -L (長さ) ×H (高さ) ×W (巾) ×φ (直径)
	寸法 (cm)	寸法 (cm)	寸法 (cm)	寸法 (cm)	寸法 (cm)	---	
	品質・形状	品質・形状	---	---	---	---	
	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考
	-	-	作成年月日/作成者	作成年月日/作成者	---	受入者	受入方法-寄贈・寄託・借用・購入・() 種別-実物 (完・部)・製作・模型・パネル・() 展示歴-展覧会名/開催期間
		受入方法	指定 (国/県/市)	受入方法			
		種別	年代	種別			
		展示歴	ネガNo.	展示歴			
		採集経過	撮影月日	-			
		分布由来	撮影者				
		製作法・材料	使用法				
		製作地/製作年代	使用地/使用年代				
		製作者/年齢/職業/性別	使用者/年齢/職業/性別				
		調査年月日/調査者	談話者/年齢/職業/性別/住所				

さがしもののたびにでよう！（上）

—小学校3年生向けプログラムの試み—

宮原 彩（当館嘱託）

1. はじめに ～ワークブック作成の経緯～

西宮市立郷土資料館では、例年、市内の小学校のうち授業で「郷土学習」を学んでいる小学校3年生の団体見学を多く受け入れている。従来は「西宮のおいたち」というビデオを見てもらい、その後、展示室の中を職員の解説を聞きながら見学してもらうというスタイルをとっていた。しかし近年、ワークシートの活用や体験学習・ハンズオン等によって、楽しみながら学ぶ場としての公共施設におけるソフト面の充実が求められるようになってきていることから、当館でも試みに小学校3年生向けのプログラムを作ってみようということになった。

当館では毎年1月から3月に民俗資料を展示する企画陳列を行なっている。企画陳列はテーマが絞ってあり、問題設定がしやすい。また、例年1月から3月にかけては団体見学の申込みが少ないことから、団体見学の増加をねらうという意図もあり、まずはこの企画陳列に即したワークブックを作るということになった。平成12年度の民俗資料の企画陳列は月毎にテーマが異なる。1月が「仕掛けて、大漁！」と題して仕掛ける漁具を展示、2月は「男の装い」と題して男性の和洋のおしゃれ着や小物を展示、3月は「器の中の絵画世界」と題して、絵の描かれている茶碗や漆器を展示することとなっていた。学芸員合田茂伸氏と民具担当の大上直美氏が展示の打合わせを重ねていたところに私も加えてもらい、小学校向けのプログラムも組み入れた展示とプログラムの内容について併せ考えていくこととなった。プログラム全体のコンセプトは「さがしもの」。展示室の中の展示ケースではなく、普段は展示物が置かれない部屋の隅や解説ボードの陰などに展示台を設置し、そこに企画陳列の展示物をいくつか置く。子ども達には、そのような隠されたアイテムを探してもらうというものにした。よって、ワークブックは「ぼうけんのしょ」と名付けられた。

2. 小学校3年生プログラム作成に向けて

a. プログラムの内容決定まで

プログラムは、実物資料を身近で見ってもらうことと、ワークシートをしてもらうというもの、2本立てにしようという案が早い時期から出ていた。いつも展示ケースに収まっ

ている実物資料を間近で目の当たりにするという体験は、やはり博物館に興味を持つ第一歩に大きく貢献することになるであろう。そこで、企画陳列に展示する物の中から小学生への解説に適したものを選び、その用法を手にとって説明しながら見せる「演示解説（ショー）」を行なうこととした。そして、自分達の目でしっかり展示物を見てもらう手助けをするものとして、ワークシートを用意することにした。ワークシートはⅠ.子どもの手のサイズに合うこと、Ⅱ.記入のしやすい大きさであること、Ⅲ.飽きずに取り組める問題量であること、の3点を考慮し、最終的にはB6サイズ8ページのワークブックを作成することになった。B5サイズのもの2枚を二つ折りにし、真中をホッチキスでとめたもので、大きさも丁度よく好評であった。表紙と裏表紙はインクジェットプリンターでカラー印刷にして、大切に使用してもらえるように心がけた。展示室内では、企画陳列の展示物に限って、小学3年生向けのキャプションを作成した。Ⅰ.字を大きくする、Ⅱ.3年生までに習っている漢字を使うか、ふりがなをつける、Ⅲ.パネルに貼り、展示物に関連した形に切り抜く、Ⅳ.マジックや色鉛筆を使ってカラフルにする、の4点を決め、手作りで作成した。

b. 先生方へのチラシ作戦

準備が進みつつあるところで、団体見学誘致の準備にも取り掛かった。こちらで小学校3年生向けのプログラムを準備していることを先生方に知らせなければならない。そこで、「小学校3年生団体見学誘致チラシ」を作ることにした。企画陳列の詳細と小学校3年生向けのプログラムを用意している旨を盛り込み、市内の全小学校の校長・3年生担当先生宛に送った。これは効果があったようで、チラシを見ての問い合わせの電話があったり、来館時に「チラシを見ました」との言葉をもらった。また、チラシを見ずに問い合わせの電話を下された先生には、口頭で説明した後、チラシを団体見学申込用紙と共に送った。この場合には、ワークブックを利用することを前提として下見に来てくださるなど、先生方からの反応は良かった。「このようなクイズがあると、子ども達も楽しめると思う」という意見を、下見に来て下された数校の先生方からいただいた。（以下次号）

目次 CONTENTS

特別展「道具の記録／道具の記憶」（大上直美）…2

さがしものたびにでよう！（上）（宮原 彩）…7

西宮市立郷土資料館ニュース第28号 2001年8月4日